

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370101448		
法人名	社会福祉法人真光会		
事業所名	グループホーム三和の邑		
所在地	熊本県熊本市西区城山大塘4丁目1番15号		
自己評価作成日	平成30年10月7日	評価結果市町村報告日	平成30年12月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	平成30年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「利用者との和」「地域との和」「職員の和」この3つの和を法人の理念として掲げています。田園風景の中にある施設で家庭的な環境を基盤にご利用者、職員が楽しく和気あいあいとたまには喧嘩しながら穏やかに過ごしています。喜怒哀楽の絶えない雰囲気を中心にはいつもご利用者がいます。今年度の取り組みは法人の具体的努力目標に挙げられている「前向きなチームワーク作り」をテーマとして、サブテーマに①たくさんのありがとう②業務効率化を図るとしています。毎日感謝の気持ちを文字で表すことで職員だけでなくご利用者にも笑い声のある雰囲気作りが出来ていると思います。地域の夏祭りや餅つき大会などで行事に参加し、楽しみのある生活を過ごしていただけていると思います。職員だけでなくご家族や地域の方々と共にご利用者をサポートさせていただきたいと思います。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市内中心部に近い立地でありながら心とむ景色を楽しむことができる事業所は明るく広々とした作りで、入居者の笑顔が印象的である。設立以来の法人理念に加え事業所目標も毎年設定し、より良いケアのために職員が同じ方向を向き同じ気持ちで臨んでいる。今年は職員間で「ありがとうノート」が取り入れられ、職員間の「ありがとうの言葉」から気付きが生まれる等、積極的な工夫による取り組みも見られる。法人では3事業所のグループホームがあり、年数回の合同研修では、今回「抱えない介護」についても勉強会を行う等ケアに活かす様子が窺えた。日々「家庭的」が大切にされているケアを是非今後も継続して頂きたい。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体としての基本理念「三つの和」「利用者との和」「地域との和」「職員の輪」を掲げ、さらに事業所独自の基本方針と四つの目標「家庭的」「個別対応」「自立支援」「地域との連携」を見やすい所に掲示し、管理者並びに職員がサービスの基本方針として共有し、又、事業所会議の中でも確認し合い意識づけを行っている。	法人理念・事業所の基本方針と4つの目標が掲げられ、職員のケアの基本とされている。また施設長は「前向きなチームワーク」「抱えあげない介護」「ありがとう」を今年の取組みと掲げている。理念・方針を共有することで職員同士も互いに思いやり、またケアの実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人全体として、「一職員一地域貢献」を目標に地域との交流を図っている。事業所独自の取り組みとしては、地域の廃品回収への参加、町内運動会、夏祭りの参加、地域商店会での買い物、レストランでの食事、施設まわりの散歩等を通して地域の方との交流に努めている。又、高校生のボランティアをお願いし慰問に来ていただいている。	事業所・入居者と地域との関わりは法人全体で取り組んでおり、自治会にも参加し、生活・活動に取り込まれている。外出時のゴミ拾い、地域住民との挨拶、地域での買い物等が日常生活の中で当たり前に行われ、入居者が慣れ親しんだ神社の夏祭りや町内運動会への見学や参加もある。町内運動会では職員は担当も持ち、地域の一員としての関わりが見られる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等の機会をとらえて認知症についてや、それぞれの介護施設の特徴についてなどの勉強会を行っている。運営推進委員の交代の機会も多くし、多くの人に参加していただけるように心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、会議を行い、本年度の事業計画に基づいた活動報告や利用者の状況報告、認知症の勉強会等を行っている。外部評価、実地調査、サービス情報の公表、本年度の取り組み目標の報告を行っている。又、委員さんより地域の状況、活動について教えていただくことでサービスの質の向上に繋げている。	事業所では地域との関わり・連携が大きく、地域役員が事業所や入居者を住民に橋渡しする様子も伺えた。運営推進会議では年度初めに事業方針・事業計画も報告され、地域全体で入居者を支えている。会議参加者からの意見等はサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の集団指導やグループホーム連絡協議会、介護相談専門員を受け入れ、施設意見交換会等に参加し、担当者より現況や指導を受けている。不明な点等は、その都度市の担当者へ連絡し指導を受けている。	行政主催の研修会参加や介護相談専門員の受入れ、日頃からの連絡・相談等で日頃の事業所の様子を伝え、関係を築いている。	

グループホーム三和の邑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを作成し、問題意識を共有するために勉強会や話し合いを通して、学習するようにしている。又、日頃から拘束しないケアに努めている。	法人・事業所で研修を行い、職員への徹底を行っている。従来身体拘束に対する指針はあったが、今年度からは職員で構成する身体拘束委員会を立ち上げ、3ヶ月に1度の会議を行っている。参加できない職員には議事録を用い理解を促し、全体で取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	起こってはならない事例があり、法人全体で虐待についてアンケートを取り、話し合い、勉強会を行っています。現場でも「不適切ケアが虐待の芽」という認識の上、日々のケアに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在2名の方が成年後見制度を利用されている。今度も研修会に参加し学習会等に取り入れていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所日に必ず家族へ契約内容等の説明を行い、同意を得たうえで署名、捺印をもらっている。又、家族の疑問、希望、納得を得るように心がけている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市の介護相談専門員が2か月に1回訪問され、指摘されている内容を運営に反映出来る様に取り組んでいる。又、利用者情報を職員が共有出来る様に送り帳とケース記録に記載している。家族の意見は、家族会などで質疑応答の時間を設け又、面会時にも出来るだけコミュニケーションを取り把握するように努めている。又、法人内に第三者苦情受付窓口を設置し事業所内にも意見箱を設置し対応している。	職員は日常生活の中で入居者と共に過ごし会話に参加することで、会話の中から意向の把握を行っている。年2回の家族会も継続されており、ほぼ全家族の参加が見られる。これまでは防災訓練の内容についてのお尋ねや運営推進会議への参加希望等で、苦情に繋がるものは見られないが、寄せられた意見・要望には都度検討し対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人内の運営方針に基づき、職員間でチームの年度目標を設定し、実践している。又、毎月の会議の中で、先月の反省を行い、改善すべき点は改善に繋げ、全員の意見が出せるようにしている。	毎月会議を行い、職員が感じていることや業務のことを意見として出す機会を持っている。会議では日頃の業務の振り返り、目標達成についても意見が交わされ、ケアの改善に繋げている。年2回管理者・法人による個人面接が行われており、日頃も個々に管理者へ意見を伝える機会がある。	会議時には職員間でよく意見が出され、活発な業務への取組みの様子が窺えました。事業所では「互いに注意しあえる」「意見しあえる」関係作りを課題とされている様です。入居者へのより良いケアに繋がる職員の関係作りを是非継続してください。

グループホーム三和の邑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自目標管理シートを作成し、チーム目標、研究目標、個人目標を設定し、それが達成できるように互いにサポートしている。又、日頃から現場の勤務実態、努力、実績、悩みなどを観察し、必要に応じて直接面接し把握できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修や定期的な経験年数、階級別や職種別に行われている職員研修に参加したり、自己研鑽に努めたりしている。外部研修に参加する機会も与えられるので情報共有のため会議内、法人内で発表するようにしている。又、OJTの実施も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	1年に1回、三和校区合同グループホーム会議や同法人内にあるグループホーム3事業所の合同会議に参加し、情報交換やサービスの質の向上に向けた勉強会を行っている。又、グループホーム連絡協議会にも参加している。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人との面接を行い、アセスメントを行いながら情報把握に努め、安心して入所していただけるような環境づくりを行っている。又、家族や担当のケアマネジャー、ソーシャルワーカーとの連携を取り、利用者の生活スタイルを継続出来るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話での相談や入所前に自宅などに訪問しご家族の要望や想い、サービスについての意見など、傾聴する機会を作っている、又、事業所に¥の介護方針、サービス内容をよく説明し十分に理解していただけるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの見学を勧め、何度も来所して頂き、実際の様子を見てもらっている。又、必要に応じて他のサービス事業所や市の窓口、包括支援センター、他のグループホーム等の情報も提供している。		

グループホーム三和の邑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意志を確認しその思いを尊重している。又、本人の能力を発揮できるような環境づくりを行い、出来る事は極力本人に行っていただけるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に2回家族会を行い、状況や活動を報告している。家族会の中に地域の方とも交流があるよう地域の行事に合わせて家族会を開けるようにしている。月1回広報誌を作成し、日頃の様子を写真等で記載し報告している。又、面会に来やすい雰囲気作りを心がけており衣替えや通院同行を行ってもらうように働きかけている。面会の際は日頃の状況を報告している。誕生会に参加の声掛けをし又利用者が家族に会いたい電話したいと言われる時はその都度、橋渡しを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、友人、知人が来所しやすいように支援している。又、家族による馴染みのパーマ屋の利用、墓参り等を行っている。利用者の地元めぐりのドライブ等も行っている。同法人内を利用されている知人の訪問等もあっている。	入居者は近隣からの入居も多く、日頃から家族の面会もよく見られ知人の訪問も続いている。入居者の中には家族協力のもと美容院の利用や季節の帰宅、外食、家族参加の行事等、家族との関係継続を支援している。近隣に法人関連施設があり、入居者・利用者同士の交流も見られる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性等に応じてテーブルの席を考慮し、利用者の居心地の良い場所の提供に努めている。又、他の利用者の下膳をお願いしたり寂しい時の話し相手になっていただいたりお互いが助け合えるように働きかけている。又、今まであまり関わりがないご利用者同士が良い関係作りが出来るようにレクや外出支援を行い、配慮しながら支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況に応じて手紙を送ったり、入院、入所先を訪問したりして様子を伺っている。		

グループホーム三和の邑

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に直接聞き、確認しづらい時は言葉や行動の中からくみ取り、ケアに活かすように努力している。本人から確認が困難な場合は、家族から話を伺い、又、職員全員で検討し本人の想いに近づけるように努めている。	職員は日頃から入居者に寄り添い共に時間を過ごしており、言葉だけでなくしぐさ・行動からも意向を汲み取っている。家族の協力も得ながら得た意向は職員で共有・検討し、ケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活歴を本人、家族、ケアマネジャーに確認し、馴染んだ暮らし方やこれまでの経過の把握に努め、暮らしの継続性の実現に努めている。又、入所後も機会をとらえ本人や家族に確認するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日常生活を職員全員で細かく観察し記録に残し、気づいた点を情報交換し本人の現在の姿を把握するようにしている。又、有する力が発揮できるように随時、アセスメントを行い生活リハビリに繋げ張りのある生活の支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族を交えて担当者会議を行い、それぞれの意見を介護計画に反映させている。又、主治医と看護師と連携を取り、職員間でも事業所会議などで必要時にアセスメントを行い意見を取り入れるようにしている。	毎月の会議で居室担当者を中心として全職員で入居者の様子を共有しており、日頃のケアは全職員で対応している。モニタリングは3ヶ月に1度であるが、今年から居室担当者による毎月のモニタリングを取り入れているところである。計画の見直しは半年毎に行い、個々の状況により現状に即した変更・見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、ケース記録、業務日誌、バイタル記入表にその日の状態や気づき、職員の対応も記入し、全員が目を通して情報を共有している。又、朝、夕の申し送りで情報を共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の買い物、行きたい所への外出支援、緊急時や家族の事情による病院受診等、臨機応変に個別ケアを行っている。		

グループホーム三和の邑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括センターの「マップ」によって地域資源を把握し、迅速に活用出来る様になっている。又、運営推進会議を通して、地域の人たちに協力をお願いして実情を知ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を聞き、状況に合わせて適切な医療を受けられるように体制を整えている。又、近くに協力医があり、本人、家族、主治医と相談しながら受診を行っている。	入居者・家族の意見を確認し希望の医療機関の診察を支援している。協力医の利用も多いが近隣には医療機関も充実しており、訪問診療も受け入れながら、専門医への通院もある。通院時には家族に協力を依頼し、場合によっては職員による介助も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2回の訪問看護による健康チェック時に情報や気づきを報告しアドバイスを受けている。又、爪切りなどの衛生面のお手伝いもして頂いている。又、特変時や緊急時も24時間体制にて報告・相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、家族や医療機関と相談し、本人の状態を把握しながら出来るだけ早期退院出来る様情報交換を行い必要な時は家族を交えカンファレンスを行っている。協力機関の訪問看護を利用する等の関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化指針を本人、家族に説明し同意書にて確認している。終末期の取り組みは行っていない。長期にわたる継続的な医療が必要になった場合は、他の介護保険施設や医療機関を紹介する等の処置を講じている。	重度化した際の対応については入所時に本人・家族へ説明し同意を得ている。現状では、継続的な医療が必要となった際には医療機関への移行が殆どであり、これまでに看取りの経験はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、法人内研修において救急法の講習と実技訓練を受けている。又、事業所内でも防災訓練と同時に緊急時対応の訓練も行っている。法人本部備え付けのAEDの使用も可能である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同敷地内に特別養護老人ホームがあり、避難誘導活動が出来る様に協力を得ている、又、消防訓練を年に2回、実施し1回は、消防署に参加していただいている。水、食料品の備蓄も行っている。去年より地域と合同で防災訓練を行うようになり、地域との協力体制が取りやすくなった	運営推進会議も利用し地域協力のもと訓練を行っている。一昨年の熊本地震の際に津波警報が出た経験から、昨年より地域・隣接する法人施設・地域消防団との協力体制を強化し、情報共有・協力体制の確認・避難方法の徹底に取り組んできた。居室入口には「空」「済」の札が掲げられ、避難状況を把握できる工夫もされている。	

自己 目	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員採用時に守秘義務の説明を受けその後も個人情報や記録等、プライバシーに関する物は、厳重に対応するように指導を受けている。又家族に対しては、個人情報の取り扱いに関して契約時に説明を行い同意を得ている。法人内や事業所において言葉使いや接し方の研修を行っている。又、日々のケアにおいても職員同士で確認し合う体制を取っている。	職員入職時には入居者の尊重とプライバシー・守秘義務等についての研修を行う。事業所では日頃から着替え時の配慮や特に排泄、入浴等には互いに意識し合い、管理者も職員へ話をし合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一つ一つの行動の前に必ず声掛けを行い出来る限り本人の自己決定を尊重し、自分の力で行えるように支援している。又、選択肢を提供し選んでいただく等の工夫を行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースに合わせた生活支援を行っている。又、認知症の進行により、意思決定が困難な利用者に対しては、行動や反応に応じて不快な思いをされないような対応を心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みを配慮して相談しながら行っている。美容では、定期的に訪問美容を利用し、本人の希望に添うようにしている。又、気持ちがうまく伝えられないご利用者には、家族と相談しながら支援している。ご利用者の希望に応じて一緒に服の買い物支援を行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の状況に合わせて、調理方法や盛り付け皿を使い分けている。食べたいものの希望を日頃から尋ねるようにしている。毎食時、必ず利用者のそばで一緒に食事を行い、準備や、片づけ等、声掛けを行い共に行っている。施設の裏に菜園があり一緒に収穫したり食卓に提供するようにしている。メニューは旬の物を取り入れるようにしている。又、調理師が兼務で食事作りに入り手作りおやつなどレパートリーが増えている。年3回は外食を行い、ご利用者の好きな物を食べて楽しんでもらっている。	季節の食材を取り入れた献立で、時には入居者のリクエストも取り入れながら職員手作りの献立・調理を楽しんでいる。入居者も茶碗拭きやチラシでのごみ箱折り等それぞれの役割を持ち、できる範囲での参加が見られる。食事時には職員も同じ食事で時間を共にし会話を楽しむことで入居者との触れ合いの時間となっている。数日おきの買い物では入居者の同行もありカートを押す姿も見られ、食事に関わる全般が生活の一部とされている様子が窺える。		

グループホーム三和の邑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、毎食分の食事チェックを行い、水分不足の利用者は水分量のチェックを行っている。摂取状況にあわせ食事形態にも工夫をこらしている。又、月に1回、体重測定を行い、看護師や法人内の栄養士に相談して援助を行っている。献立表のチェックも行いバランスの良い献立を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の口腔内状態にあわせ訪問歯科や同法人内の歯科衛生士より指導を受け、起床後と毎食後の口腔ケアを行っている。又、そのために必要な備品も個人で揃えている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンや健康状態を確認するためチェック表を作成している。時間をみて声掛け、誘導を行いおむつ外しに心掛けている。又、その人に合った尿取りパットを選ぶようにしている。手伝うことは最小限にして、自立に向けた支援を行っている。	排泄の自立機能ができるだけ低下しないよう取り組んでいる。現状はそれぞれにあったパットを選び、昼夜とも時には声掛けを行いトイレでの排泄を継続できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便のチェックを行い排便の状態を把握している。それにより必要な方は水分摂取にこころがけ食物繊維を摂取していただき、又、1日2回の体操を行い、なるべく自然排便が行えるように支援している。又、野菜中心でバランスの良い食事の提供をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間は午後2時から4時を予定し利用者の状態に合わせ週2回から3回の割合で支援している。その中でも入りたくない日は無理強いせずに日にちをずらす等している。必ずマンツーマンで介助を行い、入浴をゆくり楽しめるように心掛けている。リフト浴を導入しており出来るだけ湯船に浸かれるよう支援している。季節に合わせてしょうぶ湯やゆず湯も行っている。	入居者の体調や意向を考慮し、週2～3回の入浴を支援、入浴日は週7日とも可能である。現在入居者の利用は無いが機械浴も準備されている。入浴時は必ず職員と1対1で、また見守り重視とした手を出し過ぎない介護を行っている。入居者は湯船につかりゆくりと時間を過ごしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の睡眠パターンを把握し、夜間安眠出来るように1日のリズムを整えている。自由に居室にて休むことの出来る利用者は干渉せずに見守りを行っている。		

グループホーム三和の邑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬されている薬の薬剤情報の冊子を作成し職員で情報の共有を行い薬に対する知識を高めている。症状に変化があった場合は、主治医に連絡し確認、報告を行っている。処方内容が変わった時は、記録に残し必ず申し送りを行っている。服薬介助においては、薬箱に様々な工夫を行い、3重のチェックを行い誤薬のないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな番組を鑑賞したりホール内で好きなBGMが聞けるように支援している。又、編み物クラブなど趣味の時間の提供を行ったり希望を聞いて買い物等の個別支援を行っている。又、昔行っていた遊び(トランプ、花札、将棋)を行う。季節のならわしや行事も取り入れ、利用者が主体となって楽しめるように支援している。又、お手伝い等、自然に行えるように場面作りを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や芝生での日光浴、買い物や荘外行事等、外出支援を取り入れている。また、家族にお願いし外出できる機会を作ってもらうように声掛けを行っている。	年間を通じて多種計画されている外出もあるが、買い物や散歩、事業所敷地内での外気浴等日常的な外出もよく行われている。買い物の際には自宅周辺へ廻ったり、家族協力での外出支援等、これまでの生活も大切にしている。	2～3日毎の食材等買い物に入居者も同行し、一緒に買い物する様子も伺えました。法人内施設同士の交流もあり、様々な計画も行われています。今後の継続に期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物ができる利用者はおられるが管理は出来ないので家族の要望で財布ごと預かっている。家族との買い物の時に手渡している。その他の利用者は、家族の依頼により職員側で預り金として管理している。本人の希望する品物を購入出来るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人から電話があった時やかかけたい時は取り次いでいる。手紙が届いた時は渡したり代読したり返事を書く手伝いをしたりしている。又、届いた手紙が紛失しないように一緒に保管する等の手伝いをしている。		

グループホーム三和の邑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物自体は施設的であるが季節感を出した装飾品を玄関や壁面に飾り工夫を凝らしている。利用者の写真や絵等の作品を飾り暖かな雰囲気作りに努めている。ホールは吹き抜けで解放感があり大きなベランダからは、景色が眺められる。台所も広く開放的である。トイレも車椅子が入る広さが2か所ありその他に1か所あり明るく衛生的である。	入居者が思い思いに多くの時間を過ごすホールは明るく開放感があり、田畑や山の穏やかで和やかな景色と時間を感じることができる。共用空間には感染症予防効果もある除菌水を使った空気清浄器を設置している。通路、トイレも広くまた掃除も行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやリクライニングソファを置き自由にくつろげる空間があり安心して過ごせるように工夫をしている。テーブル等の配置も考え利用者同士が交流を図れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋には各自、今まで使用していた家具や生活用品を持ってきていただき、本人が居心地よく暮らせるように工夫している。カーテンは各部屋色が違ったり、その方に合った表札のデザインを行い、過ごしやすい空間作りを行っている。	ベッドとエアコンが備えられた居室は明るく、家族の関わりが感じられる生活用品が持ち込まれている。部屋入口の表札もそれぞれの入居者の雰囲気大切に、その人らしさを大切にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の前に表札を置いたり、ドアの色を変えたりして利用者が分かる様にしている。トイレの前にトイレと大きく表示して利用者が自立して利用できるようにしている。バリアフリーであり足元の危険物はなくし導線の確保を行っている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名グループホーム三和の邑

作成日 平成30年12月3日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	11	より良いケアを行うために職員の関係作りの継続	職員間で何でも言いあえる関係作りを行い、よりよいケアに繋げる	感謝の気持ちをノートに記入することを継続する。会議や仕事時などで話す機会の設ける。	平成31年度 1年間
2	49	外出支援の継続	個別の外出支援をもっと取り入れ、全体の外出も充実していく	ご利用者の買い物や行きたい場所の希望を取り入れて外出する。	平成31年度 1年間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。